



| | |
|--------------|---|
| Title | インフルエンザワクチン |
| Author(s) | 大西, 直臣 |
| Citation | makoto. 1980, 32, p. 6-7 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/86096 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インフルエンザワクチン

(財)阪大微研学術課

大 西 直 臣

私たちが日常生活を営む上で、一番よく罹る病気が“かぜ”である。その原因は、細菌ウイルスによるが、その九〇%以上はウイルスによるものです。しかしその中でもインフルエンザは横綱格で、一度流行するとその

伝播度が極めて早く、大流行を起す恐れがある伝染病です。かかる。その原因は、細菌ウイルスによるが、その九〇%以上は

インフルエンザウイルスは、毎年少しづつ変化するといわれ、特つて日本でもスペインかぜ、アジアかぜの大流行を来し、特に死者一〇、〇〇〇人を出しています。その流行の本態であるイ

のソ連かぜと変遷して現在に至っていますが、それはウイルスの免疫型がそれまで流行していたものとはすっかり変わったものとなり世界的流行が起るのです。

この変遷は、ウイルスの外皮にあるヘモアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(N)の変異によるも

Nの型を重要視し、その有効成分であるHとNのみを取り出したものが現在のH Aワクチンです。このワクチンはA型、B型の流行株に合ったものが有効なものですが、ワクチンの効果をより高める為に厚生省では、

1. 人での抗体保有状況の調査

(流行の母体である学童での保有の低い株)

2. 世界的流行の恐れのある株

3. ワクチンとして効果が良い株

4. 大量に作ることのできる株

この事から、インフルエンザの流行を阻止するワクチンはHと

年のワクチン株は表1の通りです。A/熊本/37/79は、ノロウツキ型で流行の本命でA/USSR/1/77とは少し変異していますが、一九七九年から一九八〇年に

ら、今年の冬B型の流行が予測されるため、これを防ぐ意味でB型ワクチンの濃度に比べて一・五倍濃くなっています。

ついで疑問を残す向きがあるが、それはまったく漏れぬので、それはまことに理由1. 風邪の原因は全てインフルエンザウイルスではない。原因別にみると表

では次に具体的にワクチンの効果についてみると、杉浦ら（表3）の報告では香港かぜの流行時の一九六八年高校生における成績でワクチン接種の後、

ウイルスとの抗原性のずれが、ワクチン効果に影響を与えていたことは否定出来ないが、先に述べたように、日本の流行株、世界の流行株をもとに流行予測

された株と類似しており、その代表株として製造株となりました。A/Bangkok/1/79は香港型で、昨年製造株から逃げられていきましたが、今年に入り、小

められますがその効果をより高
くするため、WHOはもちろん
日本では、より早く流行予測株
を捕え、予防効果の高いワクチ
ン製造としています。国立予防

スと多種多様で、症状として同じであること、インフルエンザの比率が大きいため、まちがわれている事が最大の理由と

罹患率を比較すると对照群は A 型二七・五%， B 型二九・二%に対し接種群では夫々五・五%、一六・六%となり、防禦効果は A 型では八〇%， B 型では四三%

くし、より予防効果の高いワクチンとしています。また一九七二年以来わが国のワクチンは、副作用の少いH.A.ワクチンとなり、安全性の高いものとなりま

規模な流行を起しました。それは昨年のワクチン接種前の抗体

ここ数年来、雨期に入る前の六月頃に東南アジアで分離された

2. ウィルスの抗原のずれによるもの

たことを示しています。また福
見らは同じ頃の成績で市販ワク

ウイルスが登場していますが、

以前のワクチン接種が行われてない年令とよく一致し、今后日本でのA香港型流行を防ぐため、WHOの推奨株である

する傾向が見られるので、厳重なチェックが必要であると述べています。今年のワクチン株はそれらの配慮に基き決定された

の大きな変化があつた場合は効果は悪くなる原因ですが前に述べた
ように流行予測株とワク

%、接種群四・一%防禦効果九
一・二%を示しています。その
他多くの報告をみても流行株と
ワクチン株が一致すればより高

せん。今後なお一層免疫を高め
これらの流行を未然に防ぎ、日
本ひいては世界的大流行を阻止
するため、インフルエンザワク

B／神奈川 3／76 は最近の分離
られたのです。

が期待されるものと思います。

効果が期待できるものと

されて います。しかし、インフ
ルエンザウイルスは、抗原変異

支。

表1 1995年度インフルエンザ製造株 3/29決定

表2

三

月イソフルエンザワクチン効果調査(杉浦ら6)/*

| 群 | 非感染 | A ₂ 感染 | B感染 | A ₂ B感染 | 計 | A ₂ B感染率 | B感染率 | A ₂ 感染的B 感染率 | B 防護效果 |
|-----------|-----|-------------------|-----|--------------------|-----|---------------------|-------|----------------------------|-----------|
| 非接触 傳播 | 91 | 35 | 38 | 14 | 178 | 27.5% | 29.2% | | |
| 9.9%傳播 | 158 | 8 | 30 | 3 | 199 | 5.5% | 16.6% | 80.0% | 43.15% |
| 計 | 249 | 43 | 68 | 17 | 377 | 15.9% | 22.5% | | |

四